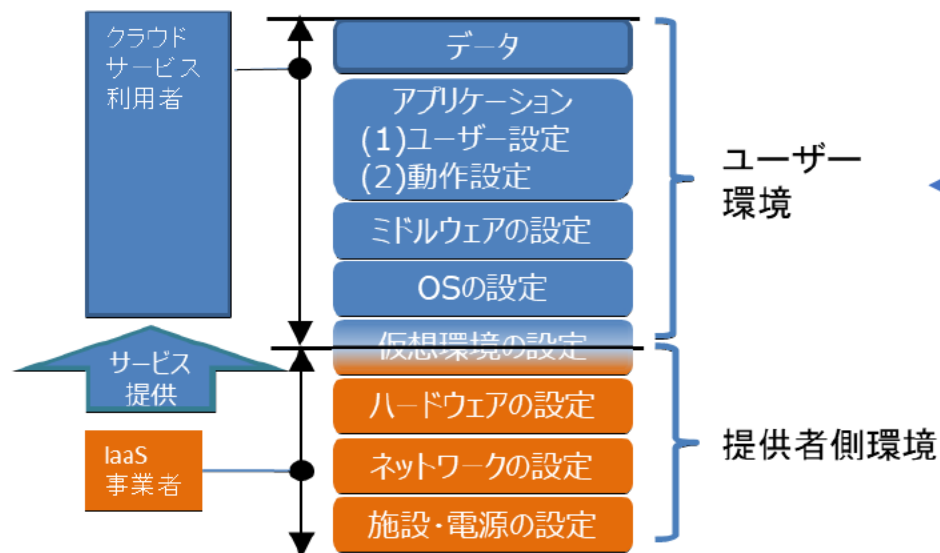


- 近年、クラウドサービスの利活用が急激に拡大する中で、クラウドサービス利用者がクラウドサービスを利用する際の設定ミスに起因する事故や、他事業者のクラウドサービスを調達・利用するクラウドサービス提供者における設定ミスに起因する情報漏えいや障害といった事故が多発している。
- このため、総務省において、2021年度、有識者及び事業者を交えて、過去の情報漏えい等の事故の原因や、クラウドサービス利用者及び提供者において実施されている設定ミスを防止するための取組について調査・分析を行った上で、クラウドサービス利用者及び提供者において実施することが望ましい取組を整理・検討した。
- 検討結果については、「クラウドサービス利用・提供における適切な設定のためのガイドライン」（案）として、意見募集を行った上で、2022年秋に策定・公表する予定。

(例) IaaSの設定に関する責任共有モデル



ガイドラインの構成

【前提および概要】

- ・クラウドサービスの設定不備のリスク
- ・クラウドサービスの設定に関する責任共有の考え方

【クラウドサービス利用側に求められる対策】

- ・利用者側において設定ミスを抑止・防止するための対策（対策例）
 - クラウド利用における社内ガバナンスの確保
 - セキュリティに係る設定項目の確認
 - 支援ツールや外部診断サービス等の活用
 - 設定に関する定期的なチェックや内部監査

【クラウドサービス提供側に求められる対策】

- ・提供者側において設定ミスを抑止・防止するための対策（対策例）
 - 正しく、十分に、わかりやすく、タイムリーな情報の提供
 - 体系的な学習コンテンツの提供
 - 設定項目管理ツールの提供
 - デフォルト値の見直し